

# 【 決算報告 】

(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

## ■収支計算書

金額単位:千円

収入の部		支出の部	
基本財産利息収入	180	事業費 人件費	14,969
益富地学会館会費収入	2,507	事業費 経費	59,586
特別会員会費収入	663	管理費 人件費	8,324
研究会会費収入	2,748	管理費 経費	10,004
会館入館料他	10,338	その他支出(立替金等増加他)	3,819
その他の事業収入	75,251		
寄附金収入	1,419		
雑収入(受取利息他)	128		
その他収入	1,085		
当期収入合計(A)	94,319	当期支出合計(C)	96,702
前期繰越収支差額	20,525	当期収支差額(A-C)	△ 2,383
収入合計(B)	114,844	次期繰越収支差額(B-C)	18,142

## ■正味財産増減計算書

金額単位:千円

損失の部		利益の部	
事業費合計	74,859	利息・雑収入合計	308
管理費合計	18,328	各会費収入合計	5,918
減価償却額(基本財産資産含む)	4,060	事業収入合計	85,589
経常外費用合計	0	寄附金収入合計	1,419
正味財産増加額	△ 4,013		
合計	93,234	合計	93,234

## ■貸借対照表

金額単位:千円

資産の部		負債・正味財産の部	
現金・預金	20,952	買掛金	108
売掛金	101	未払金	3,008
たな卸資産	4,184	未払費用	17
未収会費	260	前受金	16,495
前払金	8,553	預り金	199
立替金他	40	流動負債 合計	19,827
流動資産 合計	34,090	固定負債 合計	0
基本財産 (土地)	364,721	負債 合計	19,827
基本財産 (建物)	45,416		
基本財産 (定期預金)	40,000		
基本財産 (有価証券)	10,000		
基本財産 (標本)	94,025		
基本財産 (減価償却累計額)	△ 25,519		
基本財産 合計	528,643		
その他の固定資産	50,012	一般正味財産	578,746
減価償却累計額	△ 42,118	(内 一般正味財産期首残高)	(582,759)
減価償却引当預金	27,946	(内 当期一般正味財産増減額)	(△4,013)
その他の固定資産 合計	35,840		
資産 合計	598,573	負債及び正味財産 合計	598,573

■主な財産目録

金額単位:千円

現金	571	買掛金	108
当座預金	967	未払金	3,008
普通預金	19,376	益富地学会館会費 前受金	1,584
定期預金	38	特別会員会費 前受金	553
売掛金	101	研究会会費 前受金	538
研究会会費他 未収金	260	その他 前受金	13,820
たな卸資産(書籍)	1,605	その他の流動負債	216
たな卸資産(器具)	540	負債 合 計	19,827
たな卸資産(標本)	2,039		
その他の流動資産	8,593		
基本財産(土地)	364,721		
基本財産(建物)	45,416		
基本財産(定期預金)	40,000		
基本財産(有価証券)	10,000		
基本財産(標本)	94,025		
基本財産 (減価償却累計額)	△ 25,519		
その他の固定資産	50,012		
減価償却累計額	△ 42,118		
減価償却引当預金	27,946		
資産 合 計	598,573		

以上ご報告します。

公益財団法人 益富地学会館  
**平成 26 年度事業報告書**  
(自平成 26 年 4 月 1 日 至平成 27 年 3 月 31 日)

**[公益目的事業]**

**公 1 地学関連資料を展示する博物館の運営と地学の振興を目的とする啓発活動および教育普及活動**

(1) 趣旨 (目的)

地学及び地球科学の振興を目的として、博物館類似施設の運営とそれに付帯する普及活動や研究を行う。また、一般を対象とした印刷物等の出版や講座の実施、教育普及活動、研究奨励、インターネットを利用した情報の発信、各地の博物館、学校、教育施設等に対する支援事業を行うことを通じて地学の振興を目指す。

(2) 事業内容

ア 博物館の運営

**【標本展示室の公開】**

事業内容：益富地学会館の 3 階を鉱物、岩石、化石や地球科学に関する資料の展示室として、広く一般に公開。公開は、土曜日・日曜日・祝日の午前 10 時から午後 4 時まで、公開時間中は展示室指導員が常駐し、見学者の相談・指導にあたる。展示室の見学料は一般 200 円、小学生以下は無料。平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日に入館者は約 2800 名(有料入館者 1125 名)。

企画展示『京都の岩石“美しい岩石”の世界』(平成 27 年 1 月～3 月)を実施。

**【当館所蔵標本の整理, 分類】**

事業内容：鉱物、岩石、化石等、地学に関連する標本を収集、分類、整理し、研究ならびに教育・普及に役立てる。収集した資料は益富地学会館の収蔵室で保管し、その一部については益富地学会館 3 階の展示室で一般に展示公開。また、昨年度より 3 年計画で実施予定の 3 階展示室改装に向けた収蔵庫等の整理を行った。

**【図書及び文献の整理, 分類】**

事業内容：地学や地球科学に関連する図書および文献全般を対象に収集、分類、整理し、研究ならびに教育・普及に役立てる。収集した資料は、益富地学会館 2 階の図書室ならびに研究室に収蔵して公開。

**【地学に関する調査ならびに研究】**

事業内容：収集した鉱物、岩石、化石その他の資料を活用し、地学に関する調査や研究を行う。研究には主に益富地学会館の設備、器具、分析機器を活用し、当法人が地学の振興を目的として発行する啓発誌(『益富地学会館館報』、『地学研究』)や学会発表などの場で広く一般に公表した。

1. 栃木県日光市野門鉦山小山坑産の砒酸塩鉱物ほかについて：鈴木保光ほか(『地学

研究』62巻1号)

2. 群馬県川湯村背嶺峠付近の自然蒼鉛他について：成谷俊明ほか（『地学研究』62巻2号）

3. 日本鉱物科学会の学術講演会（於：熊本大学、平成26年9月17日(水)～9月19日(金)）において研究成果を発表。京都大学、国立科学博物館、東北大学、アマチュア研究者と共同で、日本新産鉱物7種ならびに稀産鉱物の記載学的な研究成果報告を行った。

紀伊半島南部海岸に見られる銅・亜鉛・鉛の二次鉱物（1）：石橋隆ほかなど、口頭発表2件、ポスター発表4件。

イ 地学に関する知識の普及や啓発を目的とした事業

【講座や研修会等の開催】

事業内容：地学の振興を目的として、次の教育普及事業を実施。

(a) 講座・セミナー等

1. 地学講座

平成26年7月20日(日)・21日(月・祝)、鉱物観察講座第1回『苦鉄質鉱物』、講師：加藤昭、於 益富地学会館。参加者17名。

平成26年12月20日(土)・21日(日)、鉱物観察講座第2回『珪長鉱物』、講師：加藤昭、於 益富地学会館。参加者15名。

2. 石ふしぎゼミ

平成27年2月8日(日)、於 益富地学会館、発表者8名、参加者50名。

3. 石を楽しむ新春交流会

平成27年1月18日(日)、於 京都市勧業館・みやこめっせ 特別展示場 会員や一般参加者の交流会と講演会を実施。参加者180名。

講演会

『鉱物の化学組成変化と産状』：加藤 昭（国立科学博物館名誉研究員）

『長崎県奈留島における双子水晶シンポジウム、双子水晶は奈留島の宝ー日本式双晶の魅力を探るー』：川崎雅之（日本地学研究会会員）

『日本産の新産鉱物・新産鉱物（2014）』：松原 聡（国立科学博物館名誉研究員）

(b) 野外活動や実地調査・作業に重点をおいた体験型の研修会

1. 野外研修会

平成26年4月6日(日)、『滋賀県三雲鉱山へ観察採集会』、雨天中止。

平成26年5月25日(日)、『京都府船岡鉱山へ鉱物観察採集会』、参加者45名。

平成26年9月7日(日)、『滋賀県三雲鉱山へ観察採集会』、参加者44名。

平成26年11月16日(日)、『滋賀県高島市マキノ鉱山へ鉱物観察採集会』、参加者37名。

2. 岩石薄片教室

平成26年6月22日(日)、於 益富地学会館、参加者10名。

平成26年11月23日(日)・24日(月・祝)、於 益富地学会館、参加者20名。

3. 化石クリーニング教室

平成27年3月1日(日)、於 益富地学会館、参加者14名。

(c) 地学巡検旅行

平成 26 年 11 月 1 日(土)～3 日(月・祝)、『四国地学巡検』、参加者 25 名。

平成 27 年 3 月 21 日(土)～22 日(日)、『伊豆大島地学巡検』、参加者 30 名。

【青少年を対象とした地学教育普及活動】

事業内容：夏休みの期間中において、児童や生徒、青少年を対象とした講座や教育普及活動を実施。

(a)かわらの石観察研究会

青少年(主に小中学生)を対象とした、かわらの石観察研究会を実施。

平成 26 年 7 月 27 日(日)、於 京都市西京区の桂川河原、参加者約 120 名。

(b)石に名前をつける会

小中学生を対象とした岩石、鉱物、化石の同定会を実施。

平成 26 年 8 月 10 日(日)、於 益富地学会館、参加者 36 名。

【地学に関する普及啓発事業】

事業内容：主に博物館を利用する一般の方を対象に、地学の知識習得の機会を拡充し、地学の振興に資することで公益に寄与することを目的として、次の事業を実施。

(a) 『益富地学会館 館報』の発行

毎月 1 日発行。内容は当館の行事案内、入手標本・図書等の解説・紹介、行事記録、地学関連ニュースの解説、地学解説記事など。発行部数 600 部。各地の博物館や研究機関、マスコミ、益富地学会館会員などに送付した。

(b)益富地学会館 web サイトの運営

広く一般に対して地学に関する有用な情報を提供することを目的にホームページを設け運用を行う。当館の紹介、行事案内、地学に関する情報を提供した。

(c) 『必携 鉱物鑑定図鑑』を平成 26 年 5 月に発行。

(d)その他の普及啓発事業

当博物館の事業に関心のある者は会員登録を行うことにより、当博物館が実施する地学普及事業等を利用しやすくなる事業を実施。会員登録については、制限がなく、希望者は規定の年会費で誰でも登録可能である。年会費は、一般会員 6,000 円、特別会員 10,000 円、ジュニア会員(満 18 歳未満)：3,000 円、家族会員：1 名 1,000 円。会員には『益富地学会館 館報』が送付されるほか、益富地学会館の入館料免除、施設利用やイベント参加費用の割引などのサービスを実施。

平成 26 年度末現在、一般会員 488 名、特別会員 75 名、ジュニア会員 34 名。

ウ 博物館・学校・教育施設等に対する支援

事業内容：各地の博物館、学校、教育施設等に対して、必要な援助・協力を実施する。

主な支援事業

(a)平成 26 年 6 月 15 日(日)、京都市青少年科学センター『自然観察教室・大文字山の地学』の指導に協力。

(b)平成 26 年 10 月 29 日(水)～11 月 30 日(日)、京都大学総合博物館で開催の、京都大学の鉱物コレクション特別展『地の宝』展への協力及び協賛。

(c)平成 26 年 11 月 15 日(土)～16 日(日)、大阪市立自然史博物館で開催の『大阪自然史フェスティバル』に参加・協力。

(d)平成 27 年 1 月 28 日(水)～3 月 29 日(日)、京都市教育委員会等主催『第 20 回ミュージアムロード《とっておきの京の文化巡り》』に参加・協力。

協力行事として、平成 27 年 3 月 1 日(日)、『体験・大文字山“石”見て歩き』(雨天中止)など。

エ 鉱物・岩石・化石等の鑑定

事業内容：鉱物、岩石、化石等の標本を鑑定する。肉眼鑑定のほか、必要があれば顕微鏡を用いた観察、X線粉末回折計を用いた分析を行い、機器分析や試料の調整を要する場合は費用を徴収した。

平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日の、鑑定・分析・相談件数は約 350 件。

オ 地学に関する研究奨励事業

【益富地学賞】

事業内容：地学や地球科学に関する研究の振興を目的として、地学に関する研究を対象に『益富地学賞』を贈呈した。地球科学に関する発見や研究報文を審査の対象とし、金賞・銀賞・銅賞・科学奨励賞等を設ける。副賞賞金（3 万円以内）を授与。

当年度は、31 点の応募があり、平成 26 年 9 月 23 日の審査委員会により、応募研究の中から 7 点の研究が受賞した。

銀賞：『滋賀の石灰岩化石の研究』：荒平奎人（大津市瀬田中学校 2 年生）

他、銅賞 1 名、科学奨励賞 2 名、努力賞 2 名、地学研究論文賞 1 名。

【『地学研究』の発行】

事業内容：地学の振興や研究の奨励を目的として、研究発表誌『地学研究』を 2 回発行した。第 62 巻 1 号、2 号（総頁数、128 頁）。発行部数各 600 部。日本地学研究会会員・地学関係教育機関等へ頒布。

【その他の研究奨励事業】

(a)日本地学研究会の運営

事業内容：地学および地球科学に関する研究の奨励と、地学に関する研究を志す者への支援を目的とする。会員は当法人が発行する研究発表雑誌『地学研究』誌上で研究成果等の発表を行うことができる。年会費は一般会員：8,000 円、団体会員：10,000 円。益富地学会館展示室への入館料免除、イベント参加費用割引、分析依頼費用割引などのサービスがある。平成 26 年度末現在の会員数 388 名(団体会員 15 団体)。

カ 鉱物鑑定検定と鉱物鑑定士の認定

次の事業は、鉱物に関する知識や、鉱物の鑑定能力を向上させることを目的とした事業であり、共通の目的を達成する手段と位置付けられる。

【鉱物鑑定検定の実施】

(a)平成 26 年 4 月 26 日～27 日：5 級・6 級・7 級・8 級

石ふしぎ大発見展・第 20 回大阪ショーで実施。

5 級：2 名受検、合格者なし。6 級：11 名受検、合格者 4 名

7 級：30 名受検、合格者 27 名。8 級：41 名受検、合格者 37 名

(b)平成 26 年 6 月 8 日：3 級・4 級・5 級・6 級・7 級

東京・上智大学で実施。

3 級：3 名受検、合格者 2 名      4 級：4 名受検、合格者 1 名

5級：7名受検、合格者4名      6級：18名受検、合格者7名  
7級：26名受検、合格者23名

(c)平成26年6月29日：3級・4級・5級

京都・益富地学会館で実施。

3級：2名受検、合格者1名      4級：2名受検、合格者2名  
5級：2名受検、合格者2名

(d)平成26年8月31日：5級・6級・7級・8級

名古屋ミネラルショーで実施。

5級：6名受検、合格者3名      6級：12名受検、合格者3名  
7級：12名受検、合格者11名      8級：27名受検、合格者26名

(e)平成26年10月11日～13日：5級・6級・7級・8級

石ふしぎ大発見展・第26回京都ショーで実施。

5級：5名受検、合格者3名      6級：17名受検、合格者5名  
7級：21名受検、合格者18名      8級：32名受検、合格者32名

(f)平成25年12月8日：8級

東京ミネラルフェアで実施。

8級：72名受検、合格者72名

(g)平成27年1月25日：3級・4級・5級

3級：6名受検、合格者なし      4級：6名受検、合格者3名  
5級：1名受検、合格者1名

(h)平成26年10月29日、12月3日：2級

2級：2名受検、合格者1名

#### 【鉱物鑑定士及び鉱物鑑定士補の認定】

鉱物に関する知識の普及や野外活動の講師など、指導者の養成を目的として、鉱物鑑定士及び鉱物鑑定士補の認定制度を設ける。

(a) 認定資格・認定基準：鉱物鑑定士は、鉱物鑑定検定の1級から3級までに合格し、定められた基準に達し、定められた認定料を納めたものに当法人が認定した。鉱物鑑定士補は、鉱物鑑定検定の4級から9級の合格者で、認定料を納めた者について当法人が認定した。ただし、8級・9級については認定料を無料とする。

平成26年度までの認定者数は、1級6名、2級4名、3級28名、4級18名、5級33名、6級69名、7級229名、8級1183名、9級45名。

(b) 認定料：別に定めた料金表に従い、認定料を徴収した。

#### 【講習会及び研修会の開催】

事業内容

(a) 鉱物鑑定検定（6級～8級）の前に、鑑定の技能向上の為の講習会を実施。

(b) 野外における実地研修会『鉱物鑑定野外研修会』を実施。

平成26年10月26日(日)、『鉱物鑑定野外研修会・京都府木津川へ、鉱物・岩石研修会』、参加者31名。

(c) 鉱物を手に取って観察できる機会の提供として、『鉱物観察会』を実施。

平成26年5月18日(日)、『鉱物観察会』、於 東京都・上智大学、参加者44名。

平成 26 年 11 月 15 日(日)、『鉱物観察会』、於 東京都・上智大学、参加者 23 名。  
【鉱物鑑定に関する知識の普及】(ストーンサークルの発行)  
事業内容：鉱物鑑定士制度の普及を図ることや、鉱物鑑定に関する知識を広げること  
を目的として、情報誌『ストーンサークル』を 2 回発行。配布対象は主に鉱物鑑定検  
定受検者で、無料で送付。

## 公 2 地学の振興を目的とする鉱物、岩石、化石等の展示会の実施

### (1) 趣旨(目的)

地学の振興を目的として、“石”をテーマとした『石ふしぎ大発見展』と称する展示会  
を開催した。この目標を達するため、次の一連の事業は、目的を達成する手段と位置付  
けられる。

### (2) 事業内容

広く一般に地学や地球科学の魅力、楽しさ、重要性、知識を普及するには、鉱物や化  
石などの実物に実際に触れる機会を設けることが最も効果的と考え、この展示会の目的  
や趣旨に賛同する出展者を募り、国内外より鉱物や化石などの実物を一堂に集め展示す  
る。毎回テーマを変えた特別展示企画、専門家による講演会、地学に関連した体験型の  
イベントなどを実施する。

#### 1. タイトル：石ふしぎ大発見展 2014・第 20 回大阪ショー

開催日時：平成 26 年 4 月 26 日(土)～28 日(月)、10 時～18 時(最終日は 16 時)

会場：大阪天満橋 OMM ビル 2F

#### ア 特別展示

事業内容：『京大 110 年の秘蔵コレクション ―京都大学総合博物館地質標本展―』

京都大学総合博物館の協力で、同館所蔵の地質標本を展示。特別展示コーナーには展  
示解説員数名を常駐させ、来場者に対して展示解説を実施。入場は無料。特別展示入場  
者のべ約 7000 人。

#### イ 学術講演会

事業内容：地学や地球科学に関するテーマについての次の講演会を行う。

『活火山は爆発するか―カムチャッカと日本の火山』：横山卓雄(同志社大学名誉教授)

『鉱物コレクションと展示―日本、欧米、中国の博物館を例として』：豊遙秋(元地質  
調査所地質標本館館長)

『希土類(レアアース)鉱物』：宮脇律郎(国立科学博物館地学研究部)

参加費は無料。参加者のべ約 300 人。

#### ウ イベント

事業内容：地学や“石”に関連した体験型のイベントを実施する。

“HALITE♡メッセージ” (参加費：500 円)

参加者のべ 218 名。

#### エ 鉱物・岩石無料鑑定会

事業内容：鉱物・岩石標本などの無料鑑定会を行う。

鑑定費用は無料。参加者 32 人。

#### オ 鉱物・岩石・化石などの出展者展示コーナーの運営



この事業の目的である、広く一般に地学や地球科学の魅力、楽しさ、重要性、知識を普及するために、鉱物や化石などの実物を実際に触れる機会を設けるという趣旨に賛同する出展者が展示するコーナーを運営した。会場を借り、休憩所、通路、照明など展示会のインフラ整備を行い、また、必要に応じて警備員や運営スタッフを配置した。

なお、展示コーナーの一部（総床面積の概ね3割程度のスペース）は、この展示会の趣旨に賛同する出展者に対して席貸し、出展料を徴収しているが、当該取組は展示会事業をはじめ当法人が行う公益目的事業を行うための財源を確保するための収益事業（収2事業）として整理している。この催し全体の総入場者約23000人。

#### カ パンフレット・展示解説の配布

事業内容：特別展示の展示解説や会場案内などを掲載したパンフレットを来場者に配布。フルカラー20頁。発行部数6000部。

#### 2. タイトル：石ふしぎ大発見展2014・第26回京都ショー

開催日時：平成26年10月11日(土)～13日(月・祝)、10時～18時（最終日は16時）

会場：京都市勧業館・みやこめっせ1階展示ホール（京都市左京区岡崎公園）

#### ア 特別展示

事業内容：『KANSAI “石ふしぎ” スポット〈KYOTO・SHIGA・HYOGO〉』

京都大学総合博物館・滋賀県多賀町立博物館などの協力を得て、関西3府県の地学の見所を一般の人々にもわかりやすく展示した。展示コーナーには展示解説員数名を常駐させ、来場者に対して展示解説を実施。入場は無料。特別展示入場者のべ約7000人。

#### イ 学術講演会

事業内容：地学や地球科学に関するテーマについての次の講演会を行う。

『日本にいた古代ゾウたちー足跡化石が語る200万年前の自然』：神谷英利（古生物学者、元京都大学助教授）

『滋賀県の“石”の天然記念物ーその特徴と現状』：磯部敏雄（八日市地学趣味の会会長）

『関西の第四紀自然史あれこれー特に未知の部分を中心に』：横山卓雄（同志社大学名誉教授）

参加費は無料。参加者のべ約300名。

#### ウ イベント

事業内容：地学や“石”に関連した体験型のイベントを実施する。

“Ring♪Ring♪サヌカイト”（参加費：800円）

参加者のべ239名。

#### エ 鉱物・岩石無料鑑定会

事業内容：鉱物・岩石標本などの無料鑑定会を行う。

鑑定費用は無料。参加者61名。

#### オ 鉱物・岩石・化石などの出展者展示コーナーの運営

この事業の目的である、広く一般に地学や地球科学の魅力、楽しさ、重要性、知識を普及するために、鉱物や化石などの実物を実際に触れる機会を設けるという趣旨に賛同する出展者が展示するコーナーを運営した。会場を借り、休憩所、通路、照明など展示会のインフラ整備を行い、また、必要に応じて警備員や運営スタッフを配置した。

なお、展示コーナーの一部（総床面積の概ね3割程度のスペース）は、この展示会の趣旨に賛同する出展者に対して席貸し、出展料を徴収しているが、当該取組は展示会事業をはじめ当法人が行う公益目的事業を行うための財源を確保するための収益事業（収2事業）として整理している。この催し全体の総入場者約20000人。

#### カ パンフレット・展示解説の配布

事業内容:特別展示の展示解説や会場案内などを掲載したパンフレットを来場者に配布。フルカラー20頁。発行部数6000部。

### [収益事業]

#### 収1 施設利用者の便宜を図る物品販売等の利用サービス促進事業

##### (1) 趣旨（目的）

益富地学会館1階のミュージアムショップ等で、一般的な店舗では販売していない野外活動用品や研究・観察用具・地学関連書籍等を販売し、当会館の利用者に便宜を図ると共に、公益事業の財源にあてる収益を得ることを目的とする。

##### (2) 事業内容

売店等で観察用品、野外活動用品、書籍、地学標本等、地学関連商品の販売を実施。サービス提供の対象者は特に限定せず、当施設の利用者のみでなく、インターネットを利用した通信販売も実施した。

地学をテーマとしたオリジナルグッズ（クリアファイル）を製作。

##### (3) 実施方法

ミュージアムショップの運営については、商品の仕入れ、販売など、すべての業務を当法人の職員が行い、業務委託は行っていない。ミュージアムショップの営業時間は、休館日である月曜日と年末年始、夏季休館日を除く日の、午前10時から午後5時の間である。

#### 収2 地学の振興を目的とした展示会における貸席事業

##### (1) 趣旨（目的）

公2事業の展示会、『石ふしぎ大発見展2014・第20回大阪ショー』及び『石ふしぎ大発見展2014・第26回京都ショー』において、展示スペースの一部（総床面積の概ね3割程度）を小間にし、この展示会の趣旨に賛同する出展者に対して貸席することで、展示会の運営費用の一部と、この法人の公益目的事業等に必要な財源を確保することを目的として実施した。

##### (2) 事業内容

この法人の公益目的事業として開催する、『石ふしぎ大発見展』において、展示スペースの一部（総床面積の概ね3割程度）を小間にし、この展示会の趣旨に賛同する出展者に対して席貸した。出展対象者は特に設けないが、出展物は地学に関するものに限定した。出展料は、小間の大きさや設営に掛かる費用によって徴収した。第20回大阪ショーの出展数195件、第26回京都ショーの出展者数203件。この展示会において、当法人は展示会全体の運営管理を行っており、警備に関してのみ警備会社に依頼した。

### (3) 展示会の概要

- ・展示会の名称：石ふしぎ大発見展 2014・第 20 回大阪ショー
- ・会場：大阪天満橋 OMM ビル 2 階展示ホール（大阪市中央区大手前）  
会場の延床面積は 3100 平米
- ・開催日時：平成 26 年 4 月 26 日(土)～28 日(月)、10 時～18 時（最終日は 16 時）
  
- ・展示会の名称：石ふしぎ大発見展 2014・第 26 回京都ショー
- ・会場：京都市勧業館・みやこめっせ 1 階展示ホール（京都市左京区岡崎公園）  
会場の延床面積は 3800 平米
- ・開催日時：平成 26 年 10 月 11 日(土)～13 日(月・祝)、10 時～18 時（最終日は 16 時）

以上